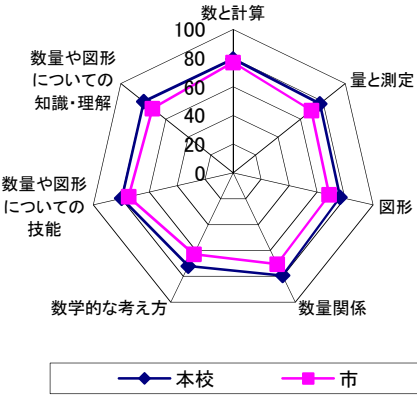


宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.4	77.0	70.4
	量と測定	77.3	69.8	68.5
	図形	76.5	68.6	72.4
	数量関係	79.4	70.6	60.4
観点別	数学的な考え方	72.1	63.0	54.8
	数量や図形についての技能	79.7	74.7	67.3
	数量や図形についての知識・理解	79.7	72.0	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本校の正答率は、市の正答率と比べて2.4%上回った。ほとんどの計算問題で、正答率が80%を超えており、小数第1位×整数の計算問題では、100%の正答率であった。数量についての技能がよく身についている。	・繰り返し学習を行い、計算力を高める。 ・文章題に関しては、図や数直線などを活用して問題の意味をしっかりとらえさせてから解答を求めさせるようにする。
量と測定	・市の正答率に比べて本校の正答率は、7.5%上回っている。立体の体積を求める問題では、正答率が88%と高い。単位量当たりの値段を求める問題では、市の正答率と比べて、8.7%下回っている。しかし、単位量当たりの考えを使って解く活用問題では、8.2%上回った。	・単位量当たりの値段を求める学習では、数直線を書いてから式を立てるなど、求めているものを明確に理解させる。 ・学年のまとめの学習をする際に、平均や単位量当たりの問題などの基礎を確認するとともに、理解させる。
図形	・市の正答率に比べて本校の正答率は、7.9%上回っている。その内容は、辺どうしの垂直な関係や四角形の定義や特徴などの問題で正答率を90%を超えており、図形に関する知識がよく身についている。	・具体物を活用し、既習内容の図形の学習を確認し、定着を図る。 ・円周を求める問題や多角形の内角の和を求める問題をドリルやプリントで反復練習して定着を図る。
数量関係	・市の正答率に比べて本校の正答率は、8.8%上回っている。計算のきまりの理解は、市の正答率と比べ16.3%と高い正答率であった。	・比例の関係にある2つの数量の変化を表にまとめてから式に表すなど、基礎を確認するとともに理解させる。 ・学年のまとめの学習をする際に、比の問題などの基礎を確認するとともに、理解させる。